



### 第3章 基本計画

## I 基本計画の体系

基本計画(前期)は、基本構想に定めた将来都市像「人と想いが つなぐつながる しあわせなまち 大家族たかはま」を実現するため、2023年度(令和5年度)から2027年度(令和9年度)までに、行政・市民・団体・企業などが協働して取り組むまちづくりの方向性や目標を示すものです。目指すべき姿(個別目標)を13目標、目標値や目標を達成するための具体的な方策・手段(こんなことに取り組みます)を38本掲げています。

### 将来都市像

人と想いが つなぐつながる  
しあわせなまち  
大家族たかはま

### 基本目標 / 個別目標

#### I 手を取り合ってみんなでまちをつくろう

- 目標1 ずっと住み続けたいまちをみんなで一緒につくります
- 目標2 お互いを理解し、支え合い、誰もが地域の一員として活躍できるまちをつくります
- 目標3 時間と場所を選ばない行政サービスを提供します
- 目標4 まちのことを知って、高浜市を応援したいという想いを育みます

#### II みんなで学び・高め合い 高浜の未来を育もう

- 目標5 多様な主体が子育て・子育てを支えます
- 目標6 自分・仲間・社会の幸せのために学び続ける子どもを育みます
- 目標7 学びで人がつながり合い まちを支える力をみんなで育みます

#### III 行きたい 住みたい 住み続けたい

##### 魅力がつながるまちをつくろう

- 目標8 暮らしを支える持続可能な都市を形成します
- 目標9 地域経済を活性化し、元気なまちをつくります
- 目標10 人と地球にやさしいきれいなまちをつくります

#### IV 心もからだも元気 毎日を笑顔で暮らそう

- 目標11 その人らしく安心して生活できる地域共生のまちづくりを進めます
- 目標12 一人ひとりと地域全体の健康づくりを応援します
- 目標13 防災・防犯の意識が高いまちづくりを目指します

## 2 個別目標シートの見方

基本構想に掲げた「将来都市像」や「まちづくりの基本目標」の実現に向けて、各分野の個別目標（なりたい姿）をワンフレーズで表しています。

各分野の個別目標（なりたいまちの姿）を具体的に表したもので、5年後（2027年）の高浜市が「こんなふうだったらいいな」、「こんなふうにしていきたい」という「まちづくりの基本目標」の実現に向けての方向性を示しています。

5年後の目指すまちの姿の実現を考えるにあたり、高浜市の現状がどうなっていて、5年後を見据えた課題としてどんなことがあるのかを表記しています。

現状や課題などを分かりやすく示すためのグラフや図などを掲載しています。

個別目標の取組みと関連しているSDGs\*のアイコンを表記しています。

▶基本目標1 手を取り合ってみんなでまちをつくらう

目標(1) 協働推進

個別目標

ずっと住み続けたいまちを  
みんなで一緒につくります



この施策が目指す5年後のまちの姿

- ◇高浜市に暮らすみんなが、まちの課題や目標を共有しています。
- ◇まちづくりに参加したい、まちのために挑戦したいという人が気軽に活動を始められ、将来のまちづくりを担う人材が増えています。
- ◇自分のためだけでなく、誰かのため、まちのために自分ができることをし、活動することで、みんながゆるやかにつながっています。

この目標分野の現状と5年後のまちの姿の実現を見据えた課題

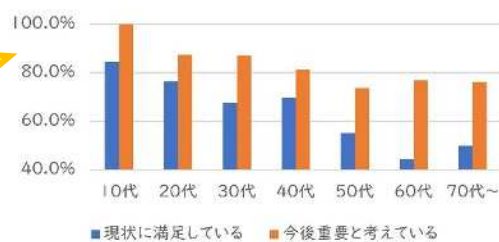
《現状》

- ◆地域活動の活性化とコミュニティの形成について若い世代ほど重要と考えているが、50代以上で現状に対し満足していないが、重要とも考えていない傾向にあります。
- ◆10代・20代は高浜市に住み続けたいという意識が他の年代より低く、若い世代ほど高浜市への愛着が薄いといえます。
- ◆20代は、転入、転出者数が他の年代よりかなり多いことから、居住年数が少なく、まちへの愛着（シビックプライド）が醸成されにくい状況であると考えられます。
- ◆深いつながりや負担を要するコミュニティに属することを望まない方も多くいます。
- ◆かつては協力・助け合わなければできなかったことが、民間サービスや技術の進歩により、個人で解決できるようになりました。
- ◆地域団体の加入率が低下する中、役員の成り手不足も深刻化しています。

《課題》

- ◇ゆるやかにつながれ、いざという時には協力し合える風土をつくる必要があります。
- ◇特に若い世代に対するシビックプライドの醸成を促進する取組み（応援・きっかけの創出）が必要となります。
- ◇時代の流れにあわせて、地域のデジタル化についても進めていく必要があります。
- ◇災害などいざという時はアナログな助け合いが必要となります。
- ◇まちづくりの担い手育成や発掘に取り組んでいく必要があります。

地域活動が活発で良好なコミュニティの形成に関する意識



出典:市民意識調査

高浜市に長く住み続けたいと思う人の割合



出典:市民意識調査

「この目標分野の現状と課題」と「目指す姿にどれだけ近づいたかをはかるまちづくり指標」は、計画策定時点での現状と課題の状況認識と取組みの達成状況を示しています。

こんなことに取り組みます

■ まちの課題や目標を共有します。

- ・高浜市の目指す将来都市像とその意味を積極的に発信します。
- ・まちの課題について語り合い・共有する場を創出します。

■ 誰かのため、まちのために活動する人や団体、企業を応援します。

- ・若い世代のちょっとした挑戦を応援できる仕組みの構築等、既存の支援制度を見直し、より効果的な支援を行います。
- ・定年延長等、地域に関わる年齢が高齢化する中、働きながらも地域デビューできるきっかけづくりや意識啓発を行います。
- ・デジタル技術の導入など活動の負担軽減を図れる仕組みを協働で研究・実施します。

■ まちづくり活動を通じて、ゆるやかにつながる風土を育みます。

- ・まちづくりに関わるインセンティブ\*の付与、活動の発表会やコンテスト等、まちづくりに興味・関心を持っていただける仕組みを構築します。
- ・町内会やまちづくり協議会活動、企業の地域貢献活動などを積極的に発信していくことで、コミュニティ活動への参画促進を支援します。
- ・時代にあったコミュニティ活動のあり方を市民・地域団体と一緒に考え、実現していきます。

「この施策が目指すまちの姿」を実現するための取組みの方向性を示しています。

◎「この施策が目指すまちの姿」の達成度合いを示す目安として「まちづくり指標」を設定しています。

◎現状値は、各々の指標に関する直近のデータです。

目指す姿にどれだけ近づいたかをはかるまちづくり指標

目標の達成度を測る指標	現状値 (2022)	目標値 (2027)
高浜市が目指すまちの目標（キャッチフレーズ）を知っている人の割合	36.3%	100%
最近1年間で高浜市 <sup>まち</sup> のために活動をしたことがある人の割合	30.0%	60%
まちづくり協議会の活動に関わったことがある人の割合	26.6%	50%

各担当部局が管理している関連する個別の計画を掲載しています。

[関連する個別計画等]  
◇地域計画(各小学校区)

[力をあわせて住み続けたい高浜市をつくろう]

一人ひとりにできること

- 高浜市公式LINEに入ってつながろう。
- 自分の得意なこと、やりたいことを地域に活かしてみよう。
- 地域のお祭りや行事に参加しよう。
- いろいろな場に顔を出して、地域に出るきっかけを探してみよう。
- 子ども食堂のことを知ろう、そして応援しよう。

◎目標を達成するため、市民一人ひとりでもできることがあります。高浜市の未来を描く市民会議で検討した、市民一人ひとりができることが記載されています。できることからやってみましょう。

みんなのできること

「みんなのできること」は各まちづくり協議会で作成している地域計画の一部を抜粋して掲載しています。掲載しきれていない項目もありますので、詳しくは各まちづくり協議会地域計画をご参照ください。

- 地域住民の様々な特技を活かし、小さな困りごとの解消や小規模な業務を請け負うことで、自主財源の確保につなげ、交付金のみに頼らず独自のまちづくりに活かしていく。
- 困りごとや相談事がある住民に対し、気軽に話ができるような「かきこみ寺」のような場を創出する。
- まちづくりに関わるやりがい・楽しさを広め、まちづくりを担う人材育成に取り組む。
- 校区内の団体相互の連携・協力関係を育む。
- 団体の課題や問題をざっくばらんに協議しあえる場をつくろう。

◎目標を達成するため、一人では無理でもみんな力で力を合わせればできることがあります。まちづくり協議会が策定している「地域計画」からみんなのできることを抜粋して、記載しています。



▲高浜市の未来を描く市民会議



▲ざっくばらんなカフェ

目標(1) 協働推進



ずっと住み続けたいまちを

みんなと一緒につくります

この施策が目指す5年後のまちの姿

- ◇高浜市に暮らすみんなが、まちの課題や目標を共有しています。
- ◇まちづくりに参加したい、まちのために挑戦したいという人が気軽に活動を始められ、将来のまちづくりを担う人材が増えています。
- ◇自分のためだけでなく、誰かのため、まちのために自分ができることをし、活動することで、みんながゆるやかにつながっています。

この目標分野の現状と5年後のまちの姿の実現を見据えた課題

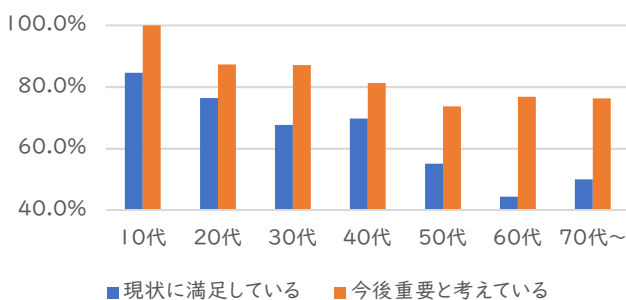
《現状》

- ◆地域活動の活性化とコミュニティの形成について若い世代ほど重要と考えているが、50代以上で現状に対し満足していないが、重要とも考えていない傾向にあります。
- ◆10代・20代は高浜市に住み続けたいという意識が他の年代より低く、若い世代ほど高浜市への愛着が薄いといえます。
- ◆20代は、転入、転出者数が他の年代よりかなり多いことから、居住年数が少なく、まちへの愛着（シビックプライド）が醸成されにくい状況であると考えられます。
- ◆深いつながりや負担を要するコミュニティに属することを望まない方も多くいます。
- ◆かつては協力・助け合わなければできなかったことが、民間サービスや技術の進歩により、個人で解決できるようになりました。
- ◆地域団体の加入率が低下する中、役員の成り手不足も深刻化しています。

《課題》

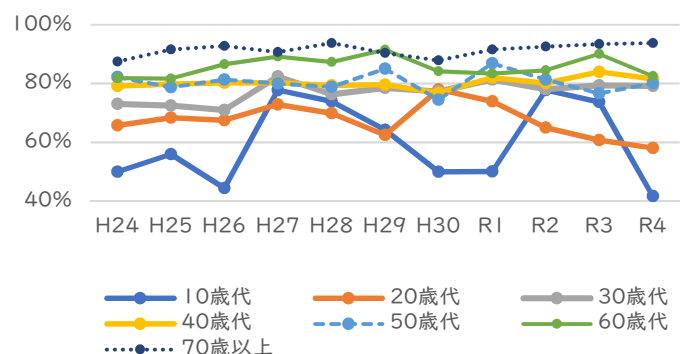
- ◇ゆるやかにつながれ、いざという時には協力し合える風土をつくる必要があります。
- ◇特に若い世代に対するシビックプライドの醸成を促進する取組み（応援・きっかけの創出）が必要となります。
- ◇時代の流れにあわせて、地域のデジタル化についても進めていく必要があります。
- ◇災害などいざという時はアナログな助け合いが必要となります。
- ◇まちづくりの担い手育成や発掘に取り組んでいく必要があります。

地域活動が活発で良好なコミュニティの形成に関する意識



出典：市民意識調査

高浜市に長く住み続けたいと思う人の割合



出典：市民意識調査

■まちの課題や目標を共有します。

- ・高浜市の目指す将来都市像とその意味を積極的に発信します。
- ・まちの課題について語り合い・共有する場を創出します。

■誰かのため、まちのために活動する人や団体、企業を応援します。

- ・若い世代のちょっとした挑戦を応援できる仕組みの構築等、既存の支援制度を見直し、より効果的な支援を行います。
- ・定年延長等、地域に関わる年齢が高齢化する中、働きながらも地域デビューできるきっかけづくりや意識啓発を行います。
- ・デジタル技術の導入など活動の負担軽減を図れる仕組みを協働で研究・実施します。

■まちづくり活動を通じて、ゆるやかにつながる風土を育みます。

- ・まちづくりに関わるインセンティブ\*の付与、活動の発表会やコンテスト等、まちづくりに興味・関心を持っていただける仕組みを構築します。
- ・町内会やまちづくり協議会活動、企業の地域貢献活動などを積極的に発信していくことで、コミュニティ活動への参画促進を支援します。
- ・時代にあったコミュニティ活動のあり方を市民・地域団体と一緒に考え、実現していきます。

目指す姿にどれだけ近づいたかをはかるまちづくり指標

目標の達成度を測る指標	現状値 (2022)	目標値 (2027)
高浜市が目指すまちの目標（キャッチフレーズ）を知っている人の割合	36.3%	100%
最近1年間で <sup>まち</sup> 高浜市のために活動をしたことがある人の割合	30.0%	60%
まちづくり協議会の活動に関わったことがある人の割合	26.6%	50%

[関連する個別計画等]

◇地域計画(各小学校区)

一人ひとりにできること

- 高浜市公式LINEに入ってつながろう。
- 自分の得意なこと、やりたいことを地域に活かしてみよう。
- 地域のお祭りや行事に参加しよう。
- いろいろな場に顔を出して、地域に出るきっかけを探してみよう。
- 子ども食堂のことを知ろう、そして応援しよう。

みんなのできること

「みんなのできること」は各まちづくり協議会で作成している地域計画の一部を抜粋して掲載しています。掲載しきれない項目もありますので、詳しくは各まちづくり協議会の地域計画をご参照ください。

- 地域住民の様々な特技を活かし、小さな困りごとの解消や小規模な業務を請け負うことで、自主財源の確保につなげ、交付金のみに頼らず独自のまちづくりに活かしていく。
- 困りごとや相談事がある住民に対し、気軽に話ができるような「かけこみ寺」のような場を創出する。
- まちづくりに関わるやりがい・楽しさを広め、まちづくりを担う人材育成に取り組む。
- 校区内の団体相互の連携・協力関係を育む。
- 団体の課題や問題をざっくばらんに協議しあえる場をつくろう。

など



▲高浜市の未来を描く市民会議



▲ざっくばらんなカフェ



目標(2) 多文化共生



お互いを理解し、支え合い、

誰もが地域の一員として活躍できるまちをつくりま

この施策が目指す5年後のまちの姿

- ◇市民がお互いの国籍や文化の違いを理解し、認め合い、外国籍市民も地域の一員として助け合い、活躍しています。
- ◇性別や考え方の違い等の多様性を理解し、認め合い、高浜市に暮らすだれもが、お互いを尊重し合えるようになっていきます。

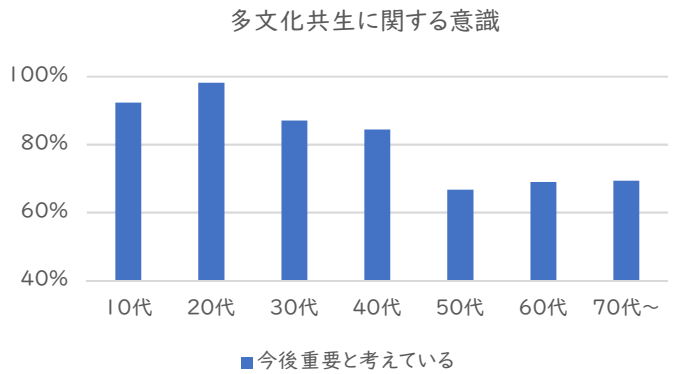
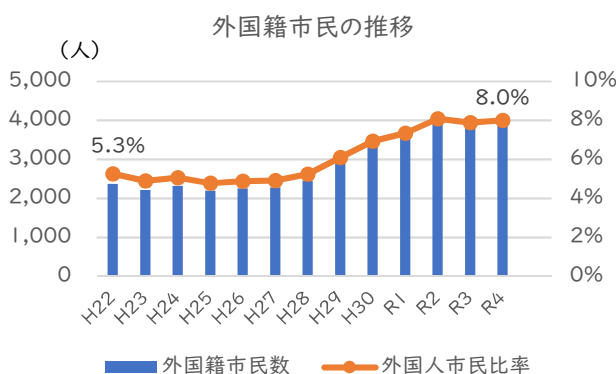
この目標分野の現状と5年後のまちの姿の実現を見据えた課題

《現状》

- ◆年々外国籍市民の方が増加し、総人口に占める外国籍の方の割合が8%を超える等、愛知県内自治体で最も高い人口比率（令和3年6月末時点）となっています。
- ◆令和3年7月に多文化共生コミュニティセンターを開設し、外国籍住民に対する一元化相談窓口の設置や初期日本語教室等に取り組んでいます。
- ◆外国籍の方と日本人の相互理解の意識に差が生じています。
- ◆性的マイノリティの方々をはじめ、すべての市民の人権を尊重し、多様な生き方を互いに認め合う社会の推進のため、令和4年4月よりパートナーシップ宣誓制度を制定しています。

《課題》

- ◇日本語も母語（最初に覚えた言語）もたどたどしい世代の発生や多国籍化による情報発信ニーズの多様化、外国籍市民の高齢化等、今後、さらなる発生が想定される新たな課題に対処していく必要があります。
- ◇LGBTQ\*をはじめとしたさらなる人権尊重の意識啓発を積極的に取り組んでいく必要があります。



出典：市民意識調査

出典：市民意識調査

■多様性を認め合い、誰もが暮らしやすい環境をつくりま

- ・国籍に関わらず暮らしやすい環境をつくるため、多文化共生推進計画を策定します。
- ・市からの情報を多言語及びやさしい日本語で提供するとともに、外国籍市民の状況把握、相談支援等を充実します。
- ・外国籍市民が生活していくために必要な日本語やルール等を学ぶ機会を充実します。
- ・性別や考え方の違い等に関わらず暮らしやすい環境をつくるため、パートナーシップ制度等、価値観を認め合う環境を整えます。

■多文化共生社会の実現に向け、一人ひとりの意識を高めます。

- ・相互理解や多文化共生についての理解を深めるための交流機会や学習機会を充実します。
- ・多様性を認め合う多文化共生に関する講演会や研修会の実施等による意識啓発に努めます。

■外国籍市民の社会参画を促進します。

- ・外国籍市民が主体的にまちづくり活動に関わることができるよう、外国籍市民へのまちづくりに関する情報提供と参加促進に努めます。
- ・外国籍市民と地域をつなぐ人材育成及び人と人をつなぐネットワークを構築します。

目指す姿にどれだけ近づいたかをはかるまちづくり指標

目標の達成度を測る指標	現状値 (2022)	目標値 (2027)
高浜市を住みやすいと思う外国籍市民の割合	92.7%	90%台を維持
最近1年間で外国籍の方と何か一緒に活動したことがある人の割合	11.5%	25%
市の審議会等の委員となっている外国籍の方の人数	1人	10人

【関連する個別計画等】

◇地域計画(各小学校区) ◇高浜市女性活躍推進計画

一人ひとりにできること

- 日本人も外国籍の人も、あいさつなどお互いに声をかけ合おう。
- 食を通じて交流しよう。
- 地域のイベントに参加してもらえるように声をかけよう。
- 「やさしい日本語」で話そう。
- 差別偏見を持つのをやめよう。

みんなのできること

「みんなのできること」は各まちづくり協議会で作成している地域計画の一部を抜粋して掲載しています。掲載しきれていない項目もありますので、詳しくは各まちづくり協議会の地域計画をご参照ください。

- 学区内に多く居住する外国籍住民との交流を図る（各種イベントなどへの参加、各国の料理自慢等）。
- 多文化への理解を深めるためこちらから交流していこう。

など



▲文化交流事業



▲SDGsをテーマにした多国籍な学習風景

目標(3) DX (デジタルトランスフォーメーション) 推進



時間と場所を選ばない行政サービスを提供します

この施策が目指す5年後のまちの姿

- ◇市民が時間と場所を気にせず必要な手続きを行うことができています。
- ◇業務の改善・効率化で浮いた人的資源を市民一人ひとりに寄り添ったサービスの強化に繋げることができています。
- ◇各種相談や面談が必要な手続き等、どうしても市役所に行かなければならない時でも、効率的なデジタル窓口が実現しています。
- ◇市民が安心して情報提供できるセキュリティシステムが構築されています。

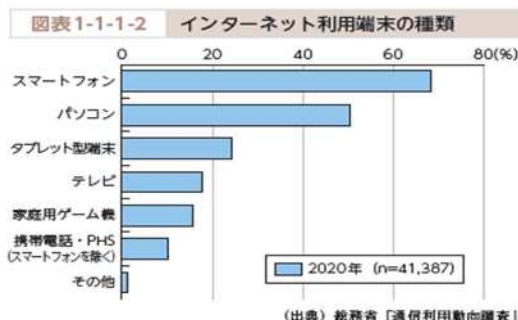
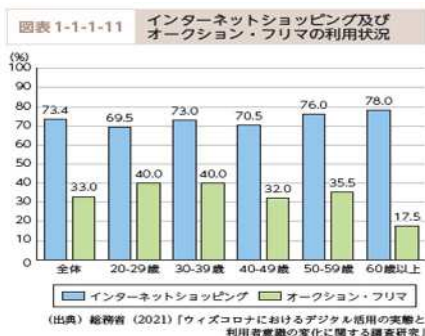
この目標分野の現状と5年後のまちの姿の実現を見据えた課題

《現状》

- ◆国の「自治体デジタルトランスフォーメーション (DX\*) 推進計画」により全ての市町村に対して足並みを揃えて「情報システムの標準化」や「行政手続きのオンライン化」が求められています。
- ◆インターネットサービスの利用者が各世代で増加しています。
- ◆セキュリティ脅威 (情報搾取や不正行為、詐欺、情報漏洩など) が高度化、複雑化しています。

《課題》

- ◇情報システムの標準化に併せAI\*やRPA\* (ロボティクス・プロセス・オートメーション) 等の新技術の導入により業務の効率化や適正な執行を図る必要があります。
- ◇市民が時間と場所を選ばず行政サービスを受けられるよう行政手続きのオンライン化を進める必要があります。
- ◇各種相談や面談が必要な手続き等、どうしても市役所に行かなければならない時、市民の負担軽減や利便性の向上を図るため、書かない・待たない・行かないデジタル窓口の実現が必要となります。
- ◇市民情報を守るためのルールづくりや情報管理体制等、セキュリティの強化を進める必要があります。



■行政サービスのオンライン化を実現します。

- ・引越や子育て関係、介護関係等の手続きについて、マイナンバーカードを用いた手続きを含め、普及率の高いスマートフォンでも手続きできるよう行政サービスのオンライン化の実現に取り組みます。

■情報システムの標準化と効率化を実現します。

- ・住民基本台帳、介護保険、税、国民健康保険、年金、選挙人名簿等市民に身近な手続きについて情報システムの標準化と事務の見直しに取り組みます。
- ・他の自治体と連携しながらA I\*やR P A\*等、新技術による業務効率化の実現に取り組みます。
- ・計画的なD X\*の推進、人材の育成に取り組みます。

■書かない・待たない・行かないデジタル窓口を実現します。

- ・申請書記入の負担軽減、関係窓口の連携強化による待ち時間の解消、証明書自動発行機（行政キオスク端末）の普及拡大により、書かない・待たない・行かないデジタル窓口の実現に取り組みます。

■市民情報を守る情報管理体制を実現します。

- ・D X\*の推進にあわせた新たなルールづくりとして高浜市個人情報保護条例の見直しに取り組みます。
- ・全ての職員が個人情報保護、情報管理スキル等が向上するよう研修・教育体制の構築に取り組みます。

目指す姿にどれだけ近づいたかをはかるまちづくり指標

目標の達成度を測る指標	現状値 (2022)	目標値 (2027)
窓口事務取扱件数（市役所来庁者数）	72,878件	50,000件
個人情報の保護に関する法律第68条第1項に該当する情報漏洩報告件数	0件	0件

[関連する個別計画等]

◇地域計画(各小学校区)

一人ひとりにできること

- マイナンバーカードのことを知って、取って、使おう。
- スマートフォンの使い方を知って、知らない人にも教えてあげよう。
- 市役所に行く・聞く前にデジタルで手続きできるか調べよう。
- コンビニで証明書をとって、便利さを友人に伝えよう。
- オンラインで講演会を見て（聞いて）みよう。

みんなのできること

「みんなのできること」は各まちづくり協議会で作成している地域計画の一部を抜粋して掲載しています。掲載しきれていない項目もありますので、詳しくは各まちづくり協議会の地域計画をご参照ください。

- 高齢者がLINEやZoomといったツールを使用できることを目指し、タブレットを用いて教室を開催する。
- 友人と情報交換、発信などができるように楽しく学ぶ「PCスマホ教室」をはじめよう。
- まち協や町内会など、各種団体の活動予定をカレンダーとして公開しよう。
- IT関係（広報）の作業量増加に対応する人材を確保していこう。



▲スマホを利用した防災力向上研修



▲マイナンバーカード特別窓口

目標(4) 情報発信・シティプロモーション



まちのことを知って、

高浜市を応援したいという想いを育みます

この施策が目指す5年後のまちの姿

- ◇情報を受け取る側の立場に立ち、まちの情報がいつでもどこでもわかりやすく得られるようになっています。
- ◇「知っていてほしい」情報が、確実に市民に届くようになっています。
- ◇まちのことが多くの人に伝わり、高浜市を「応援したい」、高浜市に「行ってみたい」「住んでみたい」という人（ファン）が増えています。

この目標分野の現状と5年後のまちの姿の実現を見据えた課題

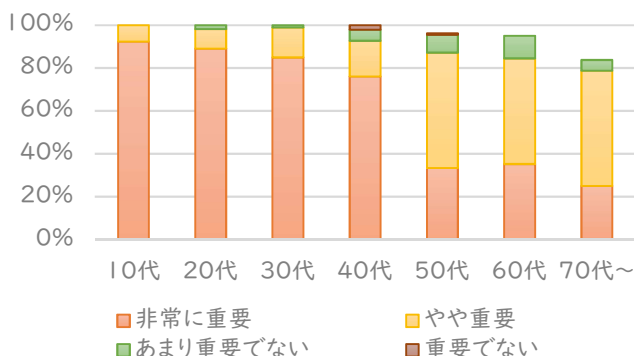
《現状》

- ◆市の情報の入手環境については、40代までは満足傾向にあるが、50代以上は満足傾向にある方の割合が50%を下回っています。
- ◆スマートフォン等の普及等、情報を得るツールが進化・多様化する中、情報の取得方法も紙媒体からデジタルへと変わってきています。
- ◆市の情報は身近に感じづらく、市民にとって興味や関心をもちにくい傾向にあります。
- ◆20代・30代の方に比べ、50代以上の方は、まちの魅力発信はあまり重要ではないと感じています。

《課題》

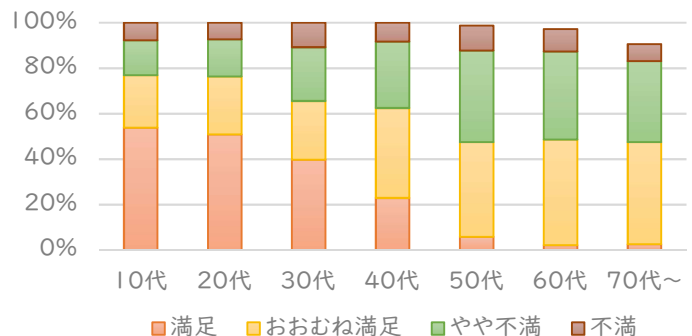
- ◇市民の関心や社会のトレンドにアンテナを張り、ニーズをくみ取る必要がある他、発信者側の情報発信に対する意識やスキルを向上させる必要があります。
- ◇電子媒体を使いこなせる世代にはより情報が伝わり、電子媒体に不慣れな世代には情報格差が生じないように、発信する内容や発信媒体の工夫、電子媒体を使いこなせるようになるための取組みが必要です。
- ◇高浜市に関わったことがある人など、関係人口の増加を目指し、高浜市のファンを増やしていくことが今後必要となります。
- ◇人と人のつながり、コミュニケーションを通じた発信で市民の満足感・納得感を高めていく必要があります。

必要な情報が手軽に入手できる環境の重要度・満足度



無回答を除いているため合計値が100%にならないことがあります。

出典：市民意識調査



無回答を除いているため合計値が100%にならないことがあります。

出典：市民意識調査

■ まちの情報をわかりやすく発信します。

- ・ 市民一人ひとりが広報マン、まちぐるみで情報を発信していく風土と仕組みを構築します。
- ・ 職員の情報発信に対する意識とスキルを向上させ、分かりやすい情報発信に努めます。

■ 「知ってほしい」が、確実に届く環境を整えます。

- ・ ICT\*技術の活用等、その時代にあった情報発信媒体を取り入れ、情報の種類や受信者に適した発信方法で、タイムリーな情報提供に努めます。
- ・ 市民と行政がお互いにコミュニケーションをとり、情報交換を活発に行い、情報のニーズをくみ取るとともに、つながりを通じて情報を発信します
- ・ 高浜市の情報はここを見ればわかるという情報のプラットフォームを整備します。

■ 高浜市を応援したくなるよう、まちの魅力を高めます。

- ・ これまで磨き上げてきた地域資源の可能性を研究し、さらに磨き上げます。
- ・ 新たな地域資源、魅力の発掘・開発に取り組みます。
- ・ 市民が高浜市（ふるさと）の良さを再発見できるきっかけをつくります。

目指す姿にどれだけ近づいたかをはかるまちづくり指標

目標の達成度を測る指標	現状値 (2022)	目標値 (2027)
最近1年間で高浜市のことをSNSで発信や友人に話すなどしたことがある人の割合	16.1%	50%
市公式ホームページへの年間アクセス件数	912,113件	2,500,000件
高浜市へのふるさと応援寄附金額	116,401,000円	300,000,000円

〔関連する個別計画等〕

◇地域計画(各小学校区) ◇高浜市広報戦略



一人ひとりにできること

- SNS (TikTok・YouTube) で高浜市を紹介しよう。
- でか落花生を広めよう。
- 勝手に観光大使になって一人ひとりがまちをPRしよう。
- 高浜市公式LINEに登録し、知り合いにも登録してもらおう。
- 市民記者になろう。

みんなでできること

「みんなでできること」は各まちづくり協議会で作成している地域計画の一部を抜粋して掲載しています。掲載しきれっていない項目もありますので、詳しくは各まちづくり協議会の地域計画をご参照ください。

- 地域の特色を活かし、伝統を見直し、まちへの愛着を深める事業を展開する。
- 季節の風物詩の見ごろに合わせて、市内外に魅力を周知する
- 散策マップ図を公共施設などに設置します。
- 会報やホームページなどでまちの情報を発信します。
- 各団体のイベント情報を収集して公開する仕組みをつくろう。
- まちづくり協議会や地域の主要団体の活動を紹介して、地域住民に各団体への理解を深めよう。 など



▲高浜市 LINE 公式アカウント



▲市公式ホームページ

目標(5) 子育て・子育て

多様な主体が子育て・子育てを支えます



この施策が目指す5年後のまちの姿

- ◇安心して子どもを産み育てられる環境が整っているまちになっています。
- ◇多様化する生活スタイルの中で、子育て・子育てを通じて家族・地域のきずなを深めていくまちになっています。
- ◇子育て・子育てを支える人材・環境が整えられて、子育てに孤立しないまちになっています。

この目標分野の現状と5年後のまちの姿の実現を見据えた課題

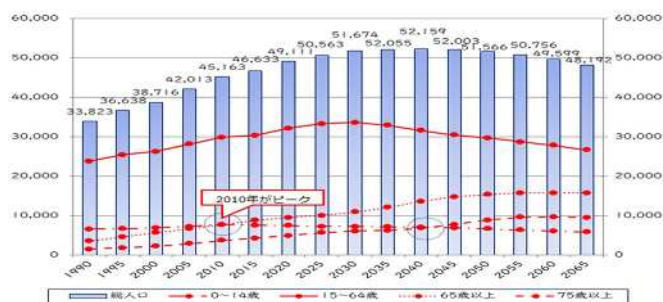
《現状》

- ◆就業者数の増加に伴い女性割合も増加しているため、今後も子育て支援に対するニーズの増加が想定されます。
- ◆将来的には子ども数は緩やかに減少することが見込まれます。
- ◆子育てを手助けする親族や知人がなく、孤立するおそれのある人が1割程度います。

《課題》

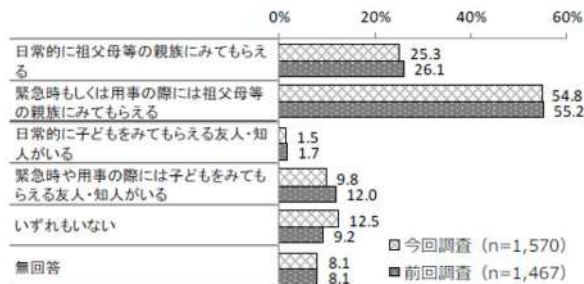
- ◇多様化する子育てニーズに応じた支援が必要となります。
- ◇女性の就業割合の増加による保育ニーズの増加と、子どもの数の減少による事業規模縮小とのバランスを考慮した柔軟性のある子育て支援が必要です。
- ◇子育て・子育てを支援・見守る人材の確保・育成が必要です。
- ◇子育てで頼れる人がいない人が地域の中で孤立することのないように、ICT\*を活用した、子育て世帯と施設、地域等の多様な関係者をつなげる仕組みを構築していく必要があります。

総人口・年齢区分別人口の推移・推計



出典: 施策動向調査

日頃、お子さんの面倒をみてもらえる親族・知人の有無



出典: 第2期高浜市子ども・子育て支援事業計画

こんなことに取り組みます

■「高浜市子ども・子育て支援事業計画」に沿って、子育て支援の充実を図り、待機児童のない保育環境とします。

- ・教育・保育ニーズを適切に把握するために定期的な意識調査に取り組みます。
- ・定期的に更新する「高浜市子ども・子育て支援事業計画」の策定に取り組みます。
- ・教育・保育ニーズに対応した、多様で柔軟な保育サービスの提供に取り組みます。
- ・ニーズに応じた地域子ども・子育て支援事業等の実施に取り組みます。

■子育ち・子育てを支える人材の育成を図るとともに、多様な主体が子育てを支える重層的な環境を実現します。

- ・子育ち・子育てを支える人材の発掘に取り組みます。
- ・様々な人材が子育ち・子育てに関わる環境の創出に取り組みます。
- ・ICT\*を活用して、子育て世帯と施設、地域等をつなげる仕組みを構築します。
- ・子育て中の親子が孤立しないように各種関係機関等が支える環境づくりに取り組みます。
- ・安全で安心できる場所を多くの子どもや保護者が利用できるように取り組みます。

目指す姿にどれだけ近づいたかをはかるまちづくり指標

目標の達成度を測る指標	現状値 (2022)	目標値 (2027)
待機児童数（幼稚園、保育園、認定こども園、児童クラブ、みどり学園）	0人	0人
高浜市 子育て支援ネットワークアクセス数	272,000件	414,000件
地域子育て支援施設利用者数（地域子育て支援拠点施設、児童センター、放課後居場所事業）	128,000人	154,000人

【関連する個別計画等】

◇地域計画(各小学校区) ◇高浜市子ども・子育て支援事業計画



一人ひとりにできること

- 親子で参加できる行事に参加しよう。
- 子どもに対する言葉かけのおもしろいガイドブックを作ろう。
- ブックドライブで本を有効活用しよう。
- 子育てのイベントに参加しよう。
- ふれあいサービス（社会福祉協議会の有償ボランティア）に登録してみよう。

みんなでできること

「みんなでできること」は各まちづくり協議会で作成している地域計画の一部を抜粋して掲載しています。掲載しきれていない項目もありますので、詳しくは各まちづくり協議会の地域計画をご参照ください。

- コミュニティスペースを解放して、子どもたちが自由に遊べる場とする。
- 親子を対象に、地域の方の力を借りて工作教室など各種教室を開催する。
- 子育て中の親向けの各種教室を開催する。
- 「子どもの夢/やってみたい」を子どもが考えて大人がサポートする仕組みづくりをする。
- 子育てについて先輩のアドバイスが聞ける、悩みを相談しあえるなどの場をつくる。

など



▲子どもたちの芋の苗植え体験



▲赤ちゃん親子交流事業



## 目標（6）学校教育

### 自分・仲間・社会の幸せのために 学び続ける子どもを育みます

#### この施策が目指す5年後のまちの姿

- ◇自ら学び、生きる力を身に付けている子どもが育っています。
- ◇自分も周りも大切にしながら、人・もの・ことに積極的につながる子どもが増えています。
- ◇自分を知り、持ち味を発揮している子どもが自分らしく輝いています。
- ◇なりたい自分に向かって学んでいる子どもが育っています。

#### この目標分野の現状と5年後のまちの姿の実現を見据えた課題

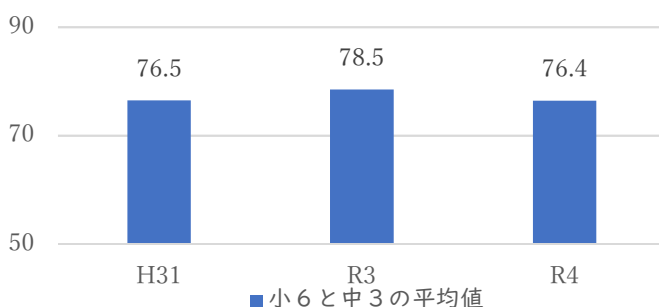
##### 《現状》

- ◆学習指導要領では、教育の普遍の部分（知・徳・体の調和のとれた発達）を大切にすることとなっています。
- ◆教育を取り巻く環境は、情報化やグローバル化の進展など変化が激しい時代にあります。
- ◆「自分にはよいところがある」と思っている児童生徒の割合が低い傾向にあります。
- ◆一人一台端末やICT\*機器が整備され、学習での積極的な活用が進んでいます。

##### 《課題》

- ◇学校教育では、常に社会の変化に対応した取組みが求められています。
- ◇変化の激しい時代においても、試行錯誤を繰り返しながらも、子どもたちが自分らしく生きていく力を育成する必要があります。
- ◇人と直接関わることのよさに気づき、多くの人との触れ合いの中で成長していくための取組みが必要です。
- ◇自分の主張だけでなく、相手の意見も尊重し、合意形成を図りながら仲間と共に様々なことに挑戦していく意欲を育む取組みが求められます。
- ◇自分のよさを理解し、自己肯定感の向上に向けた取組みが必要です。

(%) 自分にはよいところがあると思いますか  
「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」



出典：全国学力・学習状況調査



▲主体的・対話的で深い学びを重視した学習風景

## こんなことに取り組みます

### ■生きる力を育む質の高い教育活動を実施します。

- ・学習指導要領に即した基礎学力の定着を進めます。
- ・主体的・対話的で深い学びを重視した学習を推進します。
- ・人・もの・こととの関わり合いを重視した教育活動を行います。
- ・キャリア教育の充実に向けた取り組みを進めます。
- ・道徳教育、情報モラル教育等、心の教育を推進します。
- ・一人ひとりが持ち味を発揮できる集団づくりを推進します。
- ・SDGs\*についての学習を推進します。

### ■一人ひとりを大切にしたいきめ細やかな教育のしくみを創ります。

- ・異校種間・異学年間の交流を充実し、12年間の学びや育ちをつなげます。
- ・特別な支援を必要とする児童生徒への個別支援の充実に向けた取り組みを推進します。
- ・小学校において、教科担任制の積極的な取り組みを推進します。
- ・一人一台タブレットを中心としたICT\*機器のより有効的な活用を進めます。

## 目指す姿にどれだけ近づいたかをはかるまちづくり指標

目標の達成度を測る指標	現状値 (2022)	目標値 (2027)
「好きな教科がある」児童生徒の割合	88.3%	95%
「仲間と協力した場面があった」児童生徒の割合	89.5%	95%
「自分には好きなどころがある」児童生徒の割合	64.8%	75%
「将来の夢や目標をもっている」児童生徒の割合	68.5%	75%

### [関連する個別計画等]

◇地域計画(各小学校区) ◇高浜市教育基本構想

一人ひとりにできること

- 地域・学校のイベント・活動に参加して、子ども同士、親同士の交流をはかろう。
- 学習支援ボランティアに参加しよう。
- 地域で活躍する団体を知り、交流をもとう。
- いろいろな学区の地域活動に参加して、異校種間で交流しよう。
- 子どもの成長のために自分ができることに取り組もう。

みんなのできること

「みんなのできること」は各まちづくり協議会で作成している地域計画の一部を抜粋して掲載しています。掲載しきれていない項目もありますので、詳しくは各まちづくり協議会の地域計画をご参照ください。

- 児童を対象に不審者に遭遇した時に自分自身で守るための講座を開催する。
- 子ども110番のぼり旗などを設置し、児童が下校時にすぐに駆け込める体制をつくる。
- 青少年の非行防止に関する講演会や、勉強会などを通して、地域での子育てを考え、実践する。
- 児童の登下校時に、通学路の交差点で交通立哨を実施し、交通安全啓発と声かけを行います。

な



▲高浜市の未来を描く市民会議



▲学校での菊人形づくりの文化に触れる学習

目標（7）生涯学習・文化・スポーツ



学びで人がつながり合い

まちを支える力をみんなで育みます

この施策が目指す5年後のまちの姿

- ◇たくさんの感動や体験に出会い、「知りたい」「やってみたい」といった知的好奇心や意欲が高まり、学びが活発に行われています。
- ◇暮らしや学びを通じて培われた知恵・特技・経験等を活かし、市民同士の学び合いが活発に行われ、ともに成長しています。
- ◇先人たちのあゆみやまちの魅力・自慢が市民の共有財産として継承され、地域に息づいています。

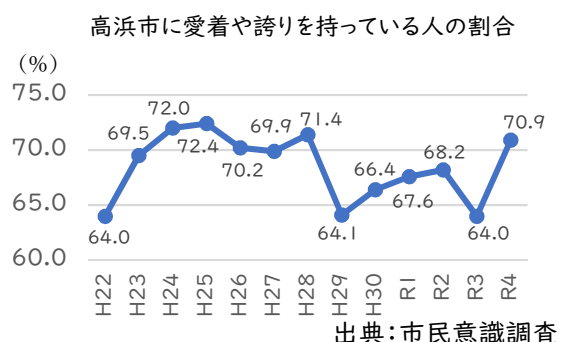
この目標分野の現状と5年後のまちの姿の実現を見据えた課題

《現状》

- ◆生涯を通じた学ぶ機会について約85%が重要と考えており、知的好奇心や意欲に火を灯し続ける必要性が認識されています。（出典：施策動向調査）
- ◆持っている知識・特技・体験などを地域や社会活動に活かしている人の割合は30～35%前後で推移しています。
- ◆高浜市に愛着や誇りを持っている人の割合が低下すると、まちの歴史や伝統・文化に対する関心や「誰かのために役立ちたい」「住んでいるまちをよりよくしたい」という“想い＝まちを支える力（まちづくりの原動力）”が希薄になることが危惧されます。

《課題》

- ◇人生100年時代、デジタル技術の進展等、社会の大きな転換点にある中で、市民一人ひとりが生き抜く力を身につけ、成長を続けられる機会の創出や環境づくりが必要となります。
- ◇持っている力を人づくり・まちづくりに積極的に活かし、学びを通じた連帯感を育てていく必要があります。
- ◇住んでいるまちのあゆみ、伝統や文化などを知り、「このまちが好き」という想いを高めていく必要があります。





■「知りたい」「やってみたい」といった想いが高まる取組みを進めます。

- ・「かわら美術館・図書館」を核に、展示・図書（読書活動）・ワークショップ等、様々な手法・資源を用いて、知的好奇心、学びの意欲、知性・感性、創造力が高まる取組みを推進します。
- ・子どものチャレンジする意欲を応援し、未来の高浜市を担う人材育成を行います。

■持っている力を人づくり・まちづくりに活かし、人と学びの輪を広げます。

- ・年齢や経験に関わらず、暮らしや学びで培われた知恵・特技等を気軽に活かせる機会を創出し、市民同士の学び合いを推進します。
- ・「する・みる・ささえる」といった多様な観点から、「いつでも・どこでも・だれでも・いつまでも」気軽に楽しめるスポーツ・レクリエーション活動を推進します。

■まちの魅力・自慢を掘り起こし、守り、伝え、育みます。

- ・様々な角度からまちの魅力・自慢（歴史・文化・伝統・産業・景観等）を見る・聴く・触れる機会を設けるとともに、伝統・文化を守り、育む活動を進めます。
- ・新編高浜市誌「高浜市のあゆみ」に掲載しきれなかった先人たちの足跡等について調査を継続し、後世へ伝え、人づくり・まちづくりに活かします。

目指す姿にどれだけ近づいたかをはかるまちづくり指標

目標の達成度を測る指標	現状値 (2022)	目標値 (2027)
読書相談件数	177件	215件
持っている知識・技能・体験を教えた・伝えたことがある人の割合	35.1%	40%
高浜市の歴史・伝統・文化に関する企画（行事）に参加したことがある人の割合（年間）	60.6%	70%

【関連する個別計画等】

- ◇地域計画(各小学校区) ◇高浜市生涯学習基本構想・基本計画

一人ひとりにできること

- 地域のイベントに友人と一緒に行的てみよう。
- ゲームやオンライン上で理想の高浜市を創造・表現してみよう。
- 年1回はかわら美術館・図書館に行こう。(森前公園に隠された水生生物のレリーフを探してみよう)
- 学んだことを友人に話してみよう。井戸端会議をしよう。
- 子どもと一緒にスポーツしよう。

みんなのできること

「みんなのできること」は各まちづくり協議会で作成している地域計画の一部を抜粋して掲載しています。掲載しきれていない項目もありますので、詳しくは各まちづくり協議会の地域計画をご参照ください。

- 子どもによるお店体験、踊りや、楽器演奏等行い地域のふれあいを育む。
- ごく身近に知識、教養の資材を提供するため、図書の保管管理を行う。
- 地域の中で、いろいろな技能の講師に登録していただき、講師となって、世代間交流や健康増進、子育て支援をするため、健康体操等さまざまな講座を開催します。
- 自然とふれあう菊人形づくりを体験して、ふるさとの文化を体験してもらおう。
- 地域の魅力を活かし、世代間や異年齢同士の子どもの交流でき、地域の中で子どもも大人も活躍できる機会を創出する。 など



▲ようこそ！あかちゃん ようこそ！びじゅつかん



▲たかはま歴史散歩

目標（8）都市基盤

暮らしを支える持続可能な都市を形成します



この施策が目指す5年後のまちの姿

- ◇市民が安全・安心・快適に通行できる道路が整備されています。
- ◇公園が安全で快適に利用できる地域の憩いの場となっています。
- ◇快適な生活の維持に必要な不可欠なライフラインとして、すべての市民に安全安心な水道水の供給ができています。
- ◇良好な住環境が形成されています。

この目標分野の現状と5年後のまちの姿の実現を見据えた課題

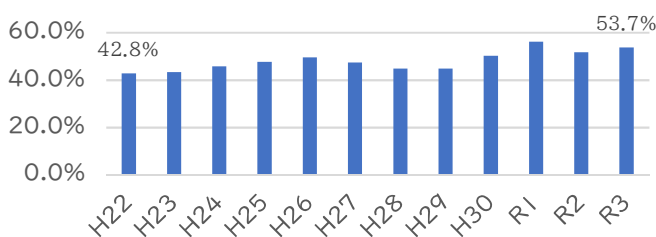
《現状》

- ◆高浜市には、幹線道路から住宅街の生活道路まで多様な道路があり、橋りょうを含め、快適な生活や地域経済を支える重要なインフラですが、その多くで老朽化が進んでいきます。
- ◆公園は、地域の憩いの場として重要な場所ですが、公園施設の老朽化が進んでいきます。
- ◆快適な生活の維持、災害時における重要なライフラインである水道施設、配水管も老朽化が進んでいきます。
- ◆昭和56年以前に建築されたもののうち、耐震性が不十分な住宅が約1割存在しています。

《課題》

- ◇道路や橋りょう、公園等については、継続的な修繕を行い、計画的な維持管理や更新、長寿命化を図っていく必要があります。
- ◇災害時でも安全安心な住環境が確保できるよう、配水管の耐震化を長期的な観点で、計画的に整備していく必要があります。
- ◇住環境の向上を図るため、まちづくりに関する各種施策に基づく土地利用の誘導や、安心・安全に向けた建物管理を促す必要があります。

調和の取れた土地利用が図られ、安全・快適で移動しやすいまちだと思える人の割合



出典：市民意識調査

まちづくりの満足度（おおむね満足以上の人の割合）

	H20.8	R2.7
良質な住環境	47.9%	63.7%
潤いの空間	51.2%	64.3%
下水道整備	58.2%	69.9%

まちづくりの重要度（やや重要以上の人の割合）

	H20.8	R2.7
良質な住環境	83.5%	91.4%
潤いの空間	82.1%	88.6%
下水道整備	81.8%	89.8%

出典：市民意識調査

■道路施設等の計画的な維持管理を実施します。

- ・老朽化する市道の舗装の修繕を計画的に行い、長寿命化を図ります。
- ・橋りょうの点検・修繕を計画的に行い、長寿命化を図ります。
- ・歩行者の安全確保のため、歩道設置等の道路の改良に取り組みます。

■公園施設の計画的な維持管理を実施します。

- ・公園施設の更新を行い、危険施設の除去、長寿命化を図ります。
- ・地域の関係団体等と協働で、花壇等の身近な場所の緑の充実に取り組みます。
- ・公園施設の更新の際には、地域のニーズに対応した施設更新を行うとともに、災害時の避難場所になるような配慮、工夫に取り組みます。

■水道施設の計画的な更新を行い、安全安心な住環境を整備します。

- ・老朽化した水道施設、配水管の計画的な更新を行い、水道水の安定供給に努めます。
- ・配水管の耐震化を進めて災害時の危機管理体制を整備します。

■良好な住環境の形成を促進します。

- ・計画的な土地利用の規制・誘導を図ります。
- ・住宅の耐震化率の向上を図るため、耐震施策を推進します。

目指す姿にどれだけ近づいたかをはかるまちづくり指標

目標の達成度を測る指標	現状値 (2022)	目標値 (2027)
道路の長寿命化を計画的に実施した割合（幹線道路の舗装）	41.5%	77%
公園を利用している人の割合	35.7%	39%
配水管の耐震化率	33.1%	41%
無料耐震診断の累計件数	1,116件	1,145件

【関連する個別計画等】

- ◇地域計画(各小学校区) ◇高浜市都市計画マスタープラン
- ◇緑の基本計画 ◇高浜市建築物耐震改修促進計画 ◇高浜市空家等対策計画
- ◇高浜市水道事業経営戦略 ◇高浜市下水道事業経営戦略

## [力をあわせて住み続けたい高浜市をつくろう]

### みんなのできること

「みんなのできること」は各まちづくり協議会で作成している地域計画の一部を抜粋して掲載しています。掲載しきれない項目もありますので、詳しくは各まちづくり協議会の地域計画をご参照ください。

- 地域の環境良化や公園に対する愛着を醸成するため、定期的な公園内清掃・除草・トイレ清掃、樹木の剪定、修繕等を実施するとともに、花壇の整備等、特色を生かした公園づくりを行う。
- 稗田川沿岸などに植栽した花・樹木の手入れ、草刈・間伐、川の水質浄化など、自然環境の美化・保全を行う。
- 住民に親しまれる公園管理を行う。

など



▲公園遊具のペンキ塗り



▲海岸清掃

※ 個別目標（8）都市基盤については、市民会議において、「一人ひとりにできること」の意見がありませんでしたので掲載していません。

目標（9）産業



地域経済を活性化し、元気なまちをつくります

この施策が目指す5年後のまちの姿

- ◇企業活動が活発に行われ、雇用が安定しています。
- ◇市内への進出企業が増加しています。
- ◇伝統技術の継承や後継者の育成が図られ、地場産業や農業が振興しています。

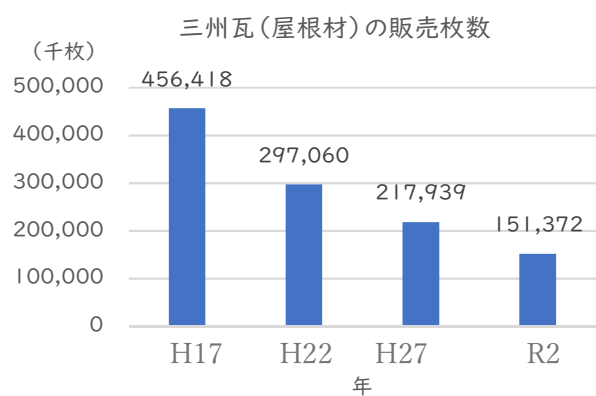
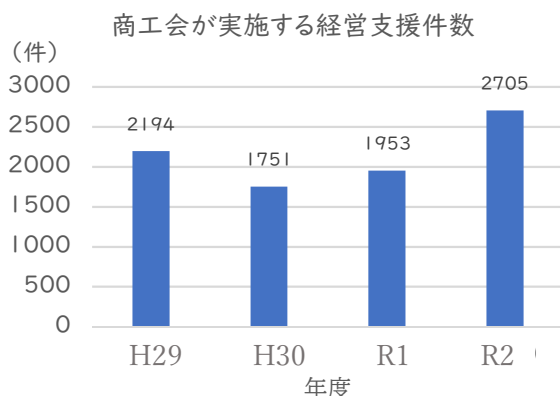
この目標分野の現状と5年後のまちの姿の実現を見据えた課題

《現状》

- ◆高浜市商工会（以下「商工会」）が実施する経営支援件数は、近年は増加傾向にあります。
- ◆市内の法人数は年々増加傾向にありますが、商業・工業の事業所数はおおむね横ばいとなっています。
- ◆新型コロナウイルス感染症による外出控えにより、商店の活性化に資するいきいき号の利用者が減少しています。
- ◆地場産業である三州瓦（屋根材）の販売枚数は減少傾向にあります。また、農業の担い手は高齢化しています。

《課題》

- ◇今後も商工業を発展させていくために、商工会と連携し、経営支援等を実施する必要があります。
- ◇感染症等による景気低迷や災害等の対応、脱炭素化、デジタル化、人口減少等の環境変化に応じた支援をする必要があります。
- ◇企業の誘致等により事業機会の拡大を図る必要があります。
- ◇三州瓦を振興するため、業界と連携し、災害による風評被害の払しょくやブランド化等を進める必要があります。
- ◇農業生産を維持していくために、担い手不足の解消に取り組む必要があります。



出典：愛知県内商工会、商工会議所の2021年度実績報告の概要

出典：愛知県陶器瓦工業組合提供資料

■企業活動が活発になるための取組みを進めます。

- ・商工会と連携し創業支援、経営支援等に取り組みます。
- ・融資制度、補助制度を活用した資金融通の円滑化支援等、環境変化に適応した企業支援のあり方を検討します。
- ・移動する人（利用者）と移動した先（スーパー等）を考慮し、コミュニティバスの見直しを進めます。

■市内への企業進出を推進します。

- ・企業が進出・操業しやすい環境の整備等、産業の活性化につながる取組みを検討します。

■地場産業や農業の振興を図ります。

- ・災害による風評被害の払しょくや商品開発、ブランド化等、三州瓦の優位性やデザイン性をPRするとともに、普及を支援します。
- ・農業関係団体等と連携し、高浜らしい農業と農福連携のあり方を検討します。

目指す姿にどれだけ近づいたかをはかるまちづくり指標

目標の達成度を測る指標	現状値 (2022)	目標値 (2027)
高浜市商工会が実施する創業・経営改善に伴う事業計画策定支援件数	49件	80件
三州瓦屋根工事等奨励補助金交付件数	25件	30件
コミュニティバスの利用者数	16,072人	20,000人

〔関連する個別計画等〕

◇地域計画(各小学校区) ◇高浜市都市計画マスタープラン

一人ひとりにできること

- 地産地消に心がけよう。
- 市内の店舗や商品をSNSを活用してPRしよう。
- 自分たちが食べているものや使っているものが、どうやって作られているか考えてみよう。
- 市内のお店で買い物をしよう。
- 地場産業の魅力を再発見してみよう。

みんなでできること

「みんなでできること」は各まちづくり協議会で作成している地域計画の一部を抜粋して掲載しています。掲載しきれない項目もありますので、詳しくは各まちづくり協議会の地域計画をご参照ください。

- 様々な団体とタイアップし、自然資源などの魅力PR、集客・交流イベントを実施する。

など



▲でか落花生収穫祭



▲彼岸花を使った地域活性化事業



目標（10）環境

人と地球にやさしいきれいなまちをつくりま



この施策が目指す5年後のまちの姿

- ◇市民一人ひとりがごみの排出を抑制し、その上で分別を徹底し、リサイクルが推進され、持続可能な循環型社会\*が形成されています。
- ◇ごみのポイ捨てや不法投棄のないきれいで住みやすいまちになっています。
- ◇温室効果ガスの削減が進み、環境負荷の少ないまちになっています。

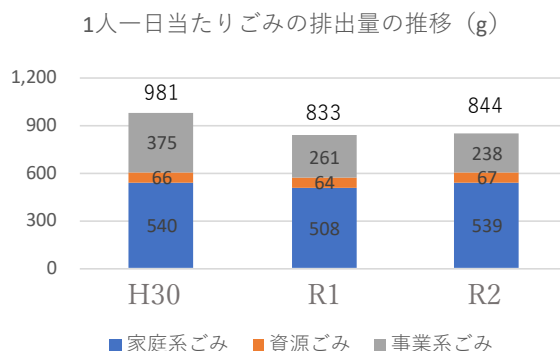
この目標分野の現状と5年後のまちの姿の実現を見据えた課題

《現状》

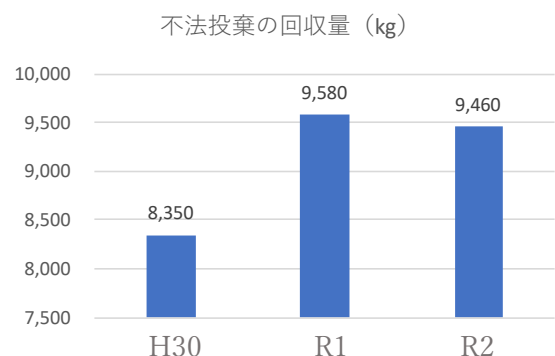
- ◆市民一人一日当たりのごみの排出量は、横ばい傾向にあります。
- ◆きれいなまちづくりを目指してポイ捨てや不法投棄のないまちづくりを推進していますが、不法投棄の回収量は増加しています。
- ◆国の2050年カーボンニュートラル宣言\*にあわせて、地域脱炭素化を推進する必要があります。

《課題》

- ◇さらなるごみの減量に向けて、5R（発生抑制・購入拒否・再使用・修理・再利用）を積極的に推進し、大量生産・大量消費・大量廃棄の社会から、限りある資源を有効に活用するための循環型社会\*へ転換する必要があります。
- ◇きれいで住みやすいまちを実現するために、まちづくり協議会や町内会等の地域・事業所・市民がまちぐるみで環境美化活動を進める必要があります。
- ◇地球温暖化の要因となる温室効果ガスの排出を抑制するために、太陽光発電などの再生可能エネルギーの普及やエコカーの導入等を推進する必要があります。



出典：経済環境G提供資料



出典：経済環境G提供資料

■ごみの減量と再資源化を推進します。

- ・わかりやすいごみ分別便利帳を作成し、周知します。
- ・プラスチックごみの削減を目指す法律の施行を受けて、ごみの分別・回収のあり方等を検討し、家庭から出される資源ごみの収集量の拡大を図ります。
- ・マイバッグの携帯や食品ロスの削減等、ごみの発生抑制に取り組みます。

■ごみのポイ捨てや不法投棄のないきれいなまちを構築します。

- ・不法投棄をなくすため、市内パトロールによる監視体制を強化します。
- ・ごみのポイ捨て禁止看板の設置や広報媒体による周知により、環境の美化に取り組みます。

■環境負荷の少ないまちをつくります。

- ・公共施設等への太陽光パネルの設置、照明LED化、エコカー導入等、市が率先してカーボンニュートラルを推進します。
- ・再生可能エネルギーやエコカーの導入・省エネルギーの推進等、地域全体で脱炭素化の取組みが進むよう市民や事業者働きかけます。

目指す姿にどれだけ近づいたかをはかるまちづくり指標

目標の達成度を測る指標	現状値 (2022)	目標値 (2027)
一人一日当たりの家庭ごみの排出量	846g	800g
不法投棄の回収量	9,560kg	8,600kg
市の事務事業から排出される温室効果ガスの量	2,780t-CO <sub>2</sub>	2,463t-CO <sub>2</sub>

[関連する個別計画等]

- ◇地域計画(各小学校区)
- ◇高浜市地球温暖化対策実行計画 ◇高浜市一般廃棄物(ごみ)処理基本計画
- ◇衣浦東部ごみ処理広域化計画

一人ひとりにできること

- 市や町内会、まち協の清掃活動に参加してみよう。
- プロギング（ジョギングしながらごみ拾いをするフィットネス）をしよう。
- ごみはしっかり分別しよう。
- ごはんを残さず食べよう。
- 家庭で種をまこう、花を植えよう。

みんなでできること

「みんなでできること」は各まちづくり協議会で作成している地域計画の一部を抜粋して掲載しています。掲載しきれない項目もありますので、詳しくは各まちづくり協議会の地域計画をご参照ください。

- 美化活動として道路のごみ拾いや、公園の草取り等の活動を行う。
- 堤防の環境維持管理のため、草刈り等を行う。
- 関係団体とタイアップして資源回収を行い地域の交流、世代間の交流を図ります。
- 野鳥観察で自然と共生を学ぼう。
- 高浜の花『菊』を育てきれいな花を咲かせよう。
- 稗田川沿岸などを、四季折々の花や緑で彩る活動を行う。

など



▲稗田川の清掃活動



目標(11) 福祉



その人らしく安心して生活できる

地域共生のまちづくりを進めます

この施策が目指す5年後のまちの姿

- ◇地域と関係機関が一体的に支援する「重層的支援体制」が整備され、高齢、障がい、子ども・子育て、生活困窮等の様々な課題を抱える人が包括的な支援を受けています。
- ◇社会的につながりが弱い人が、地域でその人らしくいきいき活躍できるよう、社会とつながるしくみができています。
- ◇支える側・支えられる側という関係を越えて、地域の人々が丸ごとつながり、一人ひとりが生きがいを持ち、助け合う地域をつくっています。

この目標分野の現状と5年後のまちの姿の実現を見据えた課題

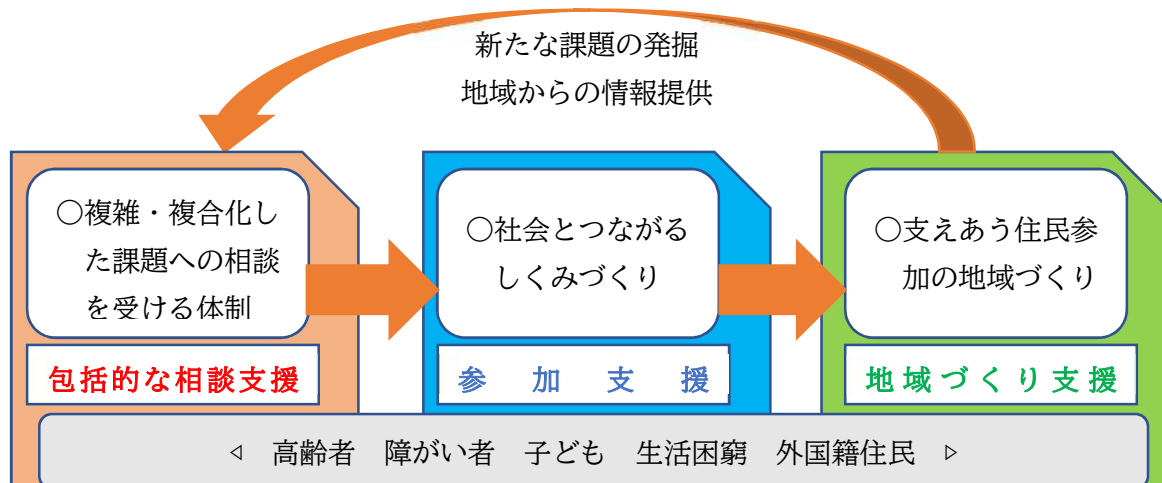
《現状》

- ◆社会構造の変化により、様々な課題が絡み合う「複雑化」、複数の分野にまたがる「複合化」した課題を抱える世帯が増えています。
- ◆地域とつながる機会の減少により、社会的に孤立している人が増えています。

《課題》

- ◇複合的な困りごとに対する包括的な支援体制の強化が求められています。
- ◇地域のつながりが希薄化する中、地域とのつながりをつくり、自立して生活できる環境が求められています。
- ◇福祉の担い手を応援し、地域の福祉力が向上する支援が求められています。

〔目指す重層的支援体制のイメージ図〕



■包括的な相談支援体制による支援を拡充します。

- ・複合的な困りごとの相談をいきいき広場全体でサポートし、関係機関や地域支援関係者との連携を図りながら支援の強化に取り組みます。

■社会参加支援の充実を図ります。

- ・ひきこもり等の社会的に孤立している人に、自立に向けた伴走型の支援\*に取り組みます。
- ・社会とのつながりづくりに向けて、障がいのある人、認知症の人、一人暮らしの高齢者等の、社会参加機会の拡充に取り組みます。
- ・農業をはじめとする異分野と福祉の連携により、支えられる側から支える側へと活躍の場を創出していきます。

■地域福祉活動を支援し、支えあう住民参加の地域づくりを進めます。

- ・災害時等、もしもの時に備えて、要支援者の実態把握を継続的に行い、地域の助け合いのための仕組み・関係づくりに取り組みます。
- ・まちづくり協議会や民生・児童委員、ボランティア等、地域の福祉に関わる支援者と連携して地域住民による見守り体制の充実を図ります。
- ・地域住民の知識や経験を活かせるボランティア活動の魅力を積極的に発信し、担い手の発掘・養成に取り組みます。

目指す姿にどれだけ近づいたかをはかるまちづくり指標

目標の達成度を測る指標	現状値 (2022)	目標値 (2027)
いきいき広場が総合相談窓口であることを知っている人の割合	71.8%	80%
社会的孤立者への支援協力事業者数	0者	5者
困っている人へ声掛けや手助けを行ったことがある人の割合	74.2%	80%

【関連する個別計画等】

- ◇地域計画(各小学校区)
- ◇地域福祉計画 ◇高浜市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画
- ◇高浜市障がい福祉計画・障がい児福祉計画 ◇高浜市障がい者福祉計画 ◇高浜市自殺対策計画

一人ひとりにできること

- 日ごろからいろんな人にあいさつをしよう。
- ヘルプマークを付けていたり、車いすや杖をついている人がいたら、手伝えることがないか声をかけよう。
- 認知症サポーター養成講座に参加して、対応方法を学ぼう。
- 困窮・認知症・障がいに対する理解を深めよう。
- 障がいを自ら体験するイベントに参加して当事者意識を深めよう。

みんなのできること

「みんなのできること」は各まちづくり協議会で作成している地域計画の一部を抜粋して掲載しています。掲載しきれていない項目もありますので、詳しくは各まちづくり協議会の地域計画をご参照ください。

- チャレンジドの就労体験活動の支援を行う。
- チャレンジドと地域の方がふれ会えるイベントを開催し、チャレンジドの理解を深める場としていく。
- 安否確認名簿を作成するなど、避難行動要支援者の実態を把握する。
- 子ども食堂として貧困層の子どもに無料で食事を提供し、自分を支えてくれる大人がいることを実感することで、地域への愛着や安心感をもつことにつなげる。 など



▲ボッチャ大会



▲ヘルプマーク

目標（12）健康

一人ひとりと地域全体の健康づくりを応援します



この施策が目指す5年後のまちの姿

- ◇若いうちから、一人ひとりが自身の健康状態に関心を持ち、健康づくり活動へ積極的に参加しています。
- ◇生活習慣病や認知症などの予防活動を通じて地域に出かける機会が増え、生きがいや役割を持ちながら、心身ともに健やかで自分らしく暮らしています。

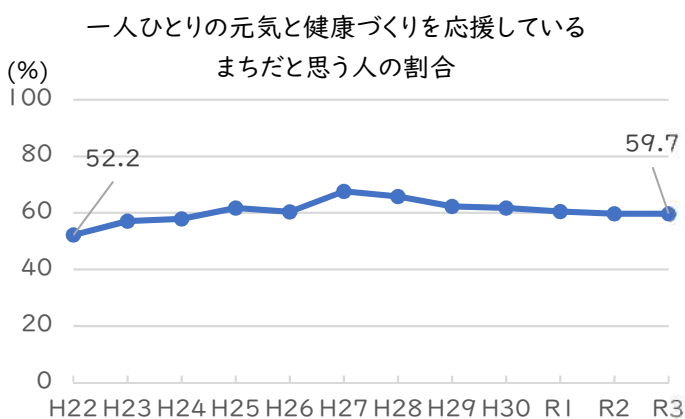
この目標分野の現状と5年後のまちの姿の実現を見据えた課題

《現状》

- ◆「一人ひとりの元気と健康づくりを応援しているまちだと思う人の割合」は6割ですが、近年は減少傾向にあります。
- ◆認知症高齢者の数は年々増加し、2025年には高齢者の5人に1人が認知症になると推計されています。
- ◆新型コロナウイルス感染症の流行により、市民生活や経済活動に大きな制約を受けています。
- ◆健康自生地\*の登録数に小学校区ごとのばらつきがあります。

《課題》

- ◇市民が自分自身の健康状態を把握するとともに、ニーズに合わせた健康情報の提供や、健康づくりに取り組みやすい環境が必要になります。
- ◇高齢化が進展する中で、認知症の予防や早期発見に努める必要があります。
- ◇行動自粛等による生活習慣の変化に起因する健康リスクの増加が予想されます。
- ◇市内全域にわたって、歩いて出かけられる距離に健康自生地\*を創出する必要があります。



出典：市民意識調査



## こんなことに取り組みます

### ■誰もが健康に関心を持ち、継続的に健康づくりに取り組める環境を作ります。

- ・定期的な健診や検診により、自身の健康状態を確認することで、健康づくりへの興味・関心を促進します。
- ・心身の健康について気軽に相談できる環境づくりに取り組むとともに、疾病を早期発見し、適切な治療が受けられるよう地域医療の充実に努めます。

### ■認知症などの予防活動に取り組み、生涯現役のまちづくりを進めます。

- ・予防、普及啓発事業を充実させることにより、積極的に認知症、生活習慣病、フレイル<sup>(注)</sup> 予防に取り組める体制をつくります。
- ・高齢者の閉じこもりを予防し、通うことのできる居場所づくりに取り組むとともに、地域における担い手を発掘し、新たな健康自生地\*を創出します。

(注) 加齢に伴い、身体や心の働き、社会的なつながりが弱くなった状態を指し、放置すると「介護が必要な状態」になる可能性があります。

## 目指す姿にどれだけ近づいたかをはかるまちづくり指標

目標の達成度を測る指標	現状値 (2022)	目標値 (2027)
定期健診（検診）を1年以内に受けている人の割合	71.7%	75%
体力や健康の保持増進を目的として身体を動かすことを習慣的に行っている人の割合	58.5%	65%
趣味や余暇活動を目的に、週1回以上 地域に出かけている人の割合	36.7%	40%

### [関連する個別計画等]

- ◇地域計画(各小学校区)
- ◇健康たかはま21 ◇高浜市国民健康保険特定健康診査・特定保健指導実施計画
- ◇高浜市国民健康保険データヘルス計画



一人ひとりにできること

- 1年に1回健康診断を受診しよう。
- 定期的におうちで体重・血圧をはかってセルフモニタリングしよう。
- 歩いてスタンプラリーをしよう。
- インスタ映えする場所を投稿して外出意欲を促そう。
- 地域の行事に参加しよう。

みんなでできること

「みんなでできること」は各まちづくり協議会で作成している地域計画の一部を抜粋して掲載しています。掲載しきれていない項目もありますので、詳しくは各まちづくり協議会の地域計画をご参照ください。

- 認知症予防コグニサイズ体操に取り組む。
- 料理教室を開催し、手や頭を働かせることにより認知症の予防も同時に行う。
- 健康な身体の維持を狙いに、高齢者を対象として、講師による介護予防体操と健康講話を実施する。
- 認知症に関する知識の普及により、予防と支援をめざし、認知症サポーター養成講座を市と協働で開催する。
- 認知症カフェを定期的で開催しよう。
- 認知症サポーターを増やそう、理解者を増やしていこう。

など



▲認知症サポーター養成講座



▲健康体操

目標（13）防災・防犯



防災・防犯の意識が高い  
まちづくりを目指します

この施策が目指す5年後のまちの姿

- ◇市民一人ひとりが、防災・防犯に対する意識を高め、安全・安心に暮らせるように取り組んでいます。
- ◇市民や地域等に「自助」「共助」の重要性が認識され、「公助」を含めた相互の連携を強化し、災害に強いまちづくりを進めています。
- ◇市民の生命と財産を守るため、地域と行政が連携し、犯罪や交通事故を防ぐ取り組みをし、安全・安心なまちづくりに取り組んでいます。

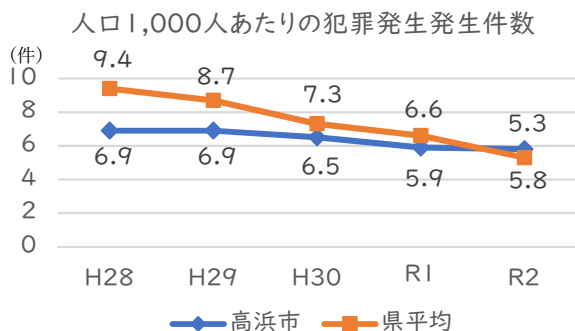
この目標分野の現状と5年後のまちの姿の実現を見据えた課題

《現状》

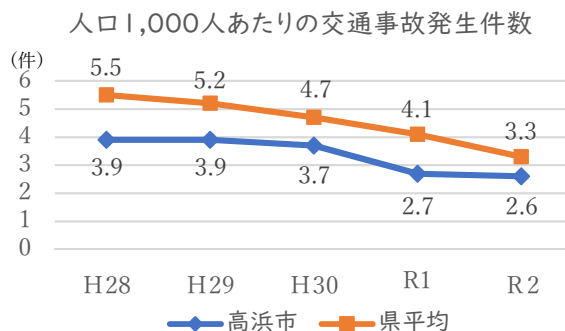
- ◆施策動向調査では、今後の重要施策として「地震や水害などの防災体制」が第1位となり、市民の防災意識が高まっています。
- ◆“青色防犯パトロール活動”や毎月行う“交通事故死ゼロの日”等の街頭活動を継続して実施し、市内の刑法犯認知件数及び交通事故発生件数は年々減少傾向にあります。

《課題》

- ◇南海トラフ地震等の大規模災害に対し、市民一人ひとりが備える「自助」の重要性が認識されるように周知する必要があります。
- ◇地域等に対して「共助」の重要性が認識されるような取り組みをし、地域防災力の向上に努める必要があります。
- ◇市民の防災意識の高まりから、市の防災対策への高い満足度が求められています。
- ◇市内在住の外国籍の方の割合は約8%と高く、外国籍の方に対して防災・減災の重要性が認識されるような取り組みをする必要があります。
- ◇防犯・交通安全対策については、引き続き地域や関係機関と連携して犯罪抑止や交通事故防止に取り組む必要があります。



出典：碧南警察署犯罪発生状況



出典：碧南警察署交通事故発生状況

■安全・安心に暮らせるまちづくりを実現します。

- ・市民一人ひとりの防災・防犯意識向上のため、防災・防犯に関する情報の周知徹底に取り組みます。
- ・市民が災害時に備えてマイ・タイムライン（避難行動計画）を作成するよう取り組みます。
- ・地域等に「共助」の重要性が認識されるような防災事業に取り組みます。
- ・大規模災害に備え「公助」における整備の改善・更新に取り組みます。

■災害に強いまちづくりを実現します。

- ・地域防災リーダー養成を推進し、自主防災組織の強化に取り組みます。
- ・消防団の人員確保と装備の充実を図り、地域防災力の向上に取り組みます。
- ・地域や消防団と連携し、地域における防災体制の強化に取り組みます。

■地域と行政が連携し、犯罪抑止、交通事故防止を図ります。

- ・「高浜市みんなで犯罪のないまちにしよう条例」に基づき、犯罪抑止活動に取り組みます。
- ・地域と行政が連携し、交通事故防止に向けた交通安全対策に取り組みます。
- ・防犯カメラ・防犯灯の設置や地域主体のパトロールの支援に取り組みます。

目指す姿にどれだけ近づいたかをはかるまちづくり指標

目標の達成度を測る指標	現状値 (2022)	目標値 (2027)
市民が災害時用に食糧等を備え、マイ・タイムライン（避難行動計画）を作成している世帯の割合	6.1%	50%
人口1,000人あたりの犯罪発生件数	4.8件	4件
人口1,000人あたりの交通事故発生件数	2.5件	2件

【関連する個別計画等】

- ◇地域計画(各小学校区)
- ◇高浜市国土強靱化地域計画 ◇高浜市地域防災計画 ◇高浜市国民保護計画

一人ひとりにできること

- 避難袋の準備・点検・入れ替えをしよう。
- マイ・タイムライン（避難行動計画）を作成しよう。
- 自宅の防犯対策（鍵・防犯フィルム・防犯カメラ・センサーライト等）をしよう。
- 備蓄品を管理しよう。（ローリングストック法など）
- 防犯カメラ設置推進地域のパネルを掲示しよう。

みんなのできること

「みんなのできること」は各まちづくり協議会で作成している地域計画の一部を抜粋して掲載しています。掲載しきれていない項目もありますので、詳しくは各まちづくり協議会の地域計画をご参照ください。

- 青パト講習会に参加し、青パト車による防犯パトロールを実施します。
- 近い将来予想される大災害発生時に対応できるよう、各団体が一堂に集まり訓練を行う。
- 地域の防災力向上のため、合同の防災訓練を実施する。
- 犯罪情報や不安箇所などの情報を警察や市役所と連携して把握し、地域でその情報を共有する。
- 防犯の専門家を育成し、地域にひろめていこう。
- 登下校の見守りと交通安全を地域で行う仕組みをつくろう。

など



▲総合防災訓練



▲青パト出発式